

開催日時: 11月19日(木)
生態リスクCOE リレー講義
開催場所: 環境情報 1号棟 305室

演題
自然攪乱体制に基づいた生態系管理

講演者 森 章 助教

要旨) 攪乱体制の定量化は、生態系管理において重要な項目のひとつである。陸域の生態系においては、森林は代表的な構成要素であるので、遺伝子から生態系に到るまでの様々なレベルにおける生物多様性が、森林生態系には潜在的に内包される。

そのため、森林生態系やその高位の地理的スケールにある景観に内在する自然攪乱体制を中心とした、自然本来の動的プロセスを尊重し、生態系の構造や機能を健全に保全することは、多様なレベルにおける生物多様性の包括的な保全に貢献し得るとも考えられている。

この応用生態学的観点からも森林の攪乱体制を定性的、定量的に評価し、森林生態系の非平衡性を明らかにすることは重要である。

近年、森林生態系は、その構成・構造・機能が絶えず変動し、画一的な定常状態(steady-state)や平衡点(equilibrium)に達することは極めて有り得ない(very unlikely)と考えられるようになった。この森林生態系の“非平衡性(non-equilibriumness)”を司る主要因として、自然攪乱が挙げられる。

自然攪乱体制を明らかにすることで、森林生態系の動態がより明らかになってきた。本発表では、いくつかの森林生態系や森林景観を例として、それぞれの地域の気候条件に応じた特有の自然攪乱体制を定量化し尊重することが、生態系管理の上でどのように重要視されているのかについて概説する。

※興味のある方はどなたでもご参加ください。